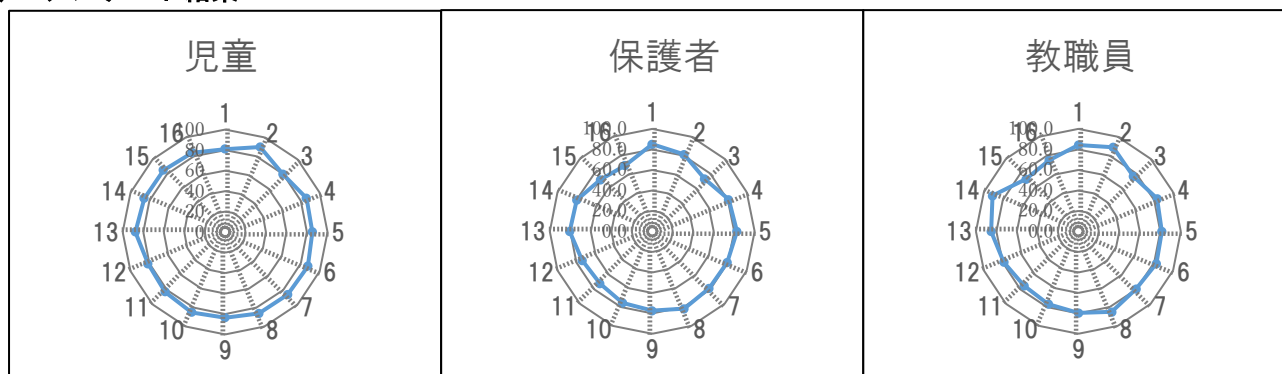


令和5年度 浜松市立竜禅寺小学校 学校評価報告書

1 自己評価

(1) アンケート結果



「子供たちに育てたい能力の育成指標」のアンケート項目

仲間をつくろう (人間関係形成・社会形成能力)	自分を高めよう (自己理解・自己管理能力)	問題を解決しよう (課題対応能力)	夢に近づこう (キャリアプランニング能力)
1 他者の個性を理解する力	5 自己の役割の理解	9 情報の理解・選択・処理	13 学ぶこと・働くことの目的や意義の理解
2 コミュニケーションスキル	6 自己の動機付け	10 課題発見	14 生き方の多様性の理解
3 リーダーシップ	7 忍耐力	11 計画立案	15 将来設計1(見通し)
4 協調性・協力性	8 主体的行動	12 実行力	16 将来設計2(実践)

※太字は令和5年度の重点項目

(2) 考察

児童全体では、それぞれの項目において80～90%程度達成していることが分かり、学校生活において、育まれるべき資質・能力を身に付けてきたという満足感が表れているものと思われます。特に、本年度の重点項目である「2 コミュニケーションスキル」や「7 忍耐力」「9 情報の理解・選択・処理」「14 生き方の多様性の理解」は、昨年度より1.6～4%数値が上がりました。これは、児童が、育成指標「〇年生のみんなに頑張ってほしい目当て」を基に目標に掲げている内容を捉え、自分の到達イメージを持って学習に取り組んだり生活したりしてきた成果であると考えます。「3 リーダーシップ」は、16項目の中では数値が一番低くなっていますが、昨年度の数値よりも4%上昇しました。「2 コミュニケーションスキル」を高める狙いがあるペア学年交流や行事・授業における異学年交流の活動において、リーダーシップの能力も高めたのではないかと考えます。

保護者の数値は、15項目において昨年度の数値より上回り、1項目が昨年度と同値でした。お子さんの学校での取組の様子を授業参観会や学校行事で見ていただいたり、学校ホームページのブログや便り、キャリア・カウンセリング、キャリア・パスポート等でお伝えしたりしたことが高評価につながったのではないかと推測されます。教育活動全般に関わる項目についても全項目の数値が昨年度より上昇しました。特に「いじめを許さない学校」についての項目の数値は、4.5%上昇し、全アンケート項目の中で伸びが最も大きくなりました。今年度から実施を始めた4月のキャリア・カウンセリングにおいて、「竜禅寺小いじめ防止基本方針」の内容に触れ、学校の方針を全保護者に直接説明したことや、いじめ事案の対応の仕方が良い評価となって表れたのではないかと考えます。引き続き、お子さんの学校での取組や学校で行っている指導の様子を具体的に伝えていきます。

また、保護者の自由記述の項目には、児童の具体的な良い表れや成長の様子についての記述が昨年度より増加しました。一方で、児童が苦手だと感じていることへの支援を望む内容も見られました。全ての児童の成長やつまずきなどの理解に努め、きめ細かな指導をしていく必要があると考えています。

2 学校関係者評価

2月20日(火)に開催した学校運営協議会において、自己評価結果及び考察について委員に報告し、以下のような意見をいただきました。

- ・ 児童が関心を持ちキャリアプランニング能力の育成につながるように、ICTやDXに関わる内容など今の時代に合った書籍や科学的な雑誌を図書室におき、図書室を充実させるとよいと思う。
- ・ 「なりたい自分」を思い描き、スモールステップで積み重ねていく「夢への足あとカード」の取組が良い。成功体験を積んでいくことは、児童はもちろん保護者にとってもうれしいことではないだろうか。
- ・ 児童が授業においてタブレット端末を活用しているが、姿勢が悪いのが気になるので、健康面も併せて指導してほしい。
- ・ いろいろな基礎的・汎用的能力の育成に関わると思うので、性教育を実施してほしい。

3 今後の教育活動について

今回の振り返りアンケートの結果と学校関係者評価を基にして、本校の教育目標「夢を持ち ともに輝く」を実現するための今後の教育活動について検討し、来年度の重点項目を以下のように定め、改善を図りたいと思います。

(1) 仲間をつくろう（人間関係形成・社会形成能力）

○「仲4」 協調性・協力性

本年度は、「仲2」コミュニケーションスキル」を重点として取り組んできました。昨年度から始めた学期に1回のペア交流を継続したり、各種行事で学年団での活動を設定したりしました。授業では、目的や方法を明確に示して必要感を持って考えを交流する活動や、異学年児童を伝える相手とする言語活動を設定しました。また、教師と児童同士がそれぞれ行ってきたドラゴン賞と「良いこと見付け」を一本化し、見付けた児童の良い行いについて称揚する言葉をカードに記入し、直接言葉掛けしながら渡す活動に取り組み、他者とのコミュニケーションスキルを高めてきました。

来年度は、高めたコミュニケーションスキルを活かしながら友達とより良い方向へ協力することができるようになってほしいと考えました。そこで、「仲4」協調性・協力性」を重点として取り組んでいきたいと思ひます。学級活動の学級会では、出された意見を組み合わせたり、良いところを取り入れて新たな考えを生み出したりするなど創意工夫して合意形成を図ることができるようにしていきたいと思ひます。そして、決めたことに取り組むことを通して、気持ち良く協力することの大切さが理解できるようにしていきたいと思ひます。さらに、学級活動で高めた力は、代表委員会や委員会活動でも生かしていくように意識付けをしていきたいと思ひます。

(2) 自分を高めよう（自己理解・自己管理能力）

○「自3」 忍耐力

本年度は、「自3」忍耐力」を重点として取り組んできました。見通し、振り返る活動の中で、日常的に振り返りを組み込み、自分の目標や取組を見つめ今後の取組方を見通したり、最後まで粘り強く取り組むための方法を教師と共に考え明確にして実行したりしていけるようにしてきました。また、やり遂げたことを価値付けたり認めたりすることができる場を確保し、次も修正・改善しながら粘り強く取組もうとする意欲を高めてきました。その結果、アンケートの児童の数値は、約87%となり、忍耐力の高まりを感じています。その一方で、保護者と教職員の数値は昨年度よりも上がっているものの、児童の達成度に比べて低くなっていました。

来年度も同項目を重点とし、本年度の取組を継続したいと思ひます。また、取組の途中で進捗状況を自分の言葉で具体的に表現し、小さな変化も認める機会を設定し、自信を持って取組めるようにしたいと思ひます。

(3) 問題を解決しよう（課題対応能力）

○「問4」 実行力

本年度は、「問1」情報の理解・選択・処理」を重点項目として取り組んできました。授業では、情報を精査して考えを形成する学びが実現できるように授業改善に取り組んできました。また、情報教育全体計画や各学年の年間指導計画の修正・改善・共通理解を図ったり、効果的な活用法の研修を実施したりして、児童のICT活用を支える教員の指導力の向上に努めました。タブレットを活用した学習についての児童のアンケート結果の数値が約91%であり、高い達成感を味わっていることが分かりました。

来年度は、「問4」実行力」を重点項目とし、課題を処理し解決することができる力が児童に身に付くようにしたいと思ひます。「問3」計画立案」とのつながりを大切にし、授業や係活動、委員会活動、学校行事において、目標達成までの過程を考え、優先順位を付けながら取組を整理する場を設定し、計画的に行動できるようにしたいと思ひます。また、考えた取組を可視化しやすくなるようなワークシートや掲示を工夫し、確実に行動できるようにしたいと思ひます。

(4) 夢に近づこう（キャリアプランニング能力）

○「夢4」 将来設計2」

本年度は、「夢2」生き方の多様性の理解」を重点項目とし、学級活動や学校行事等の特別活動では、互いの長所や個性、多様な考えを認め合い、等しく合意形成に関わり役割を担うようにすることを重視して活動に取り組んできました。また、生活科や総合的な学習の時間、特別活動等における体験活動の機会を確保し、地域・家庭と連携・協働して多様な他者と協働することの重要性を実感しながら理解できるようにしてきました。その結果、児童は、多様な他者とコミュニケーションをとりながら、様々な考え方や取組方があることを受け止め、理解し、認めることができるようになってきました。

来年度は、「夢4」将来設計2」を重点項目とし、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力が児童に身に付くようにしたいと思ひます。育成指標に掲げている能力を育成するために活用している「夢への足あとカード」では、記入した「なりたい自分」につながる具体的な行動を目当てとして思い描き、実行できるようにします。また、定期的に振り返る場を設定し、高めた力の生かし方や目当ての修正の仕方を教師と共に具体的に思い描き、取り組んでいけるようにしたいと思ひます。